

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 7月2日から3日にかけて、前線が本州付近から日本の東へ進む。4日から6日にかけて、次の前線が東シナ海から東日本付近に進む。
- 2日から6日にかけて、高気圧が千島近海をゆっくりと東へ移動する。
- 2日から6日にかけて、太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

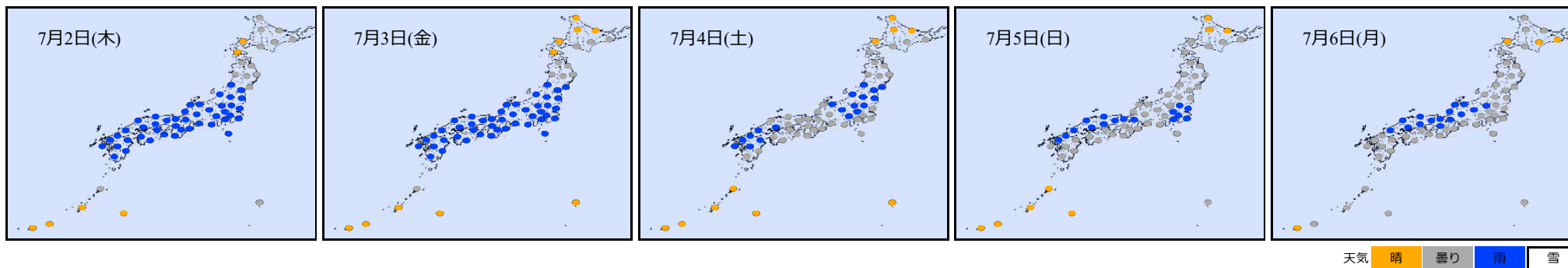
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 7月3日頃にかけて、西日本では、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

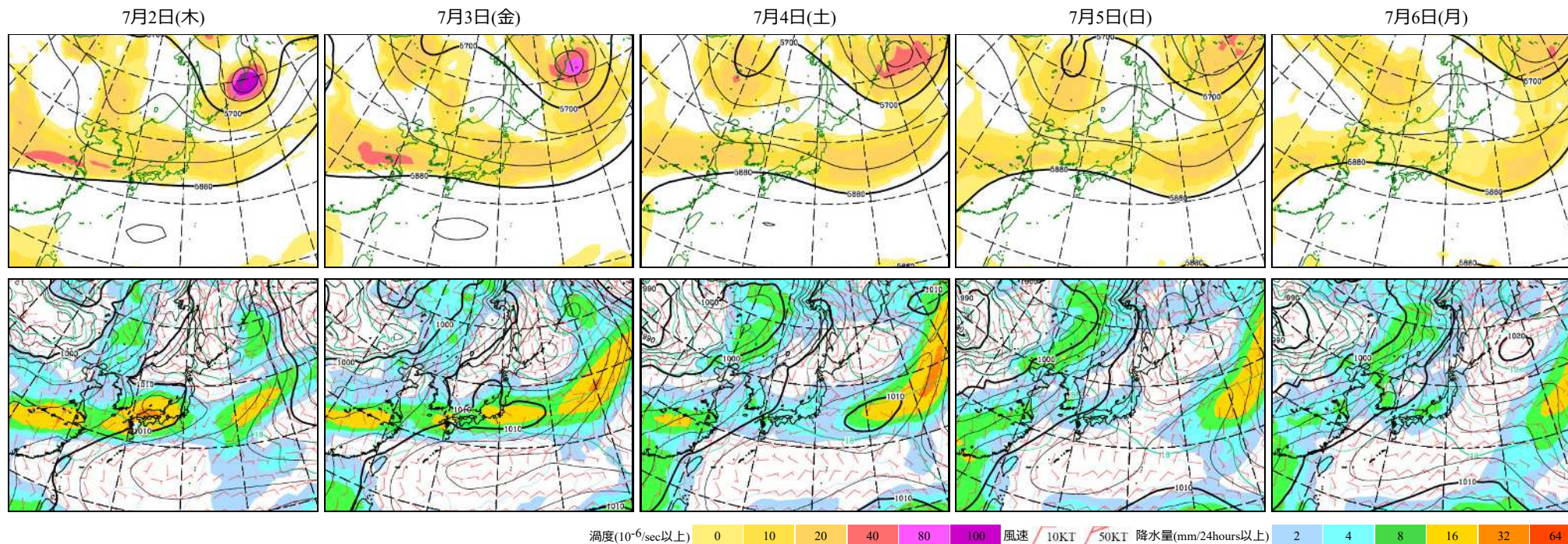
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

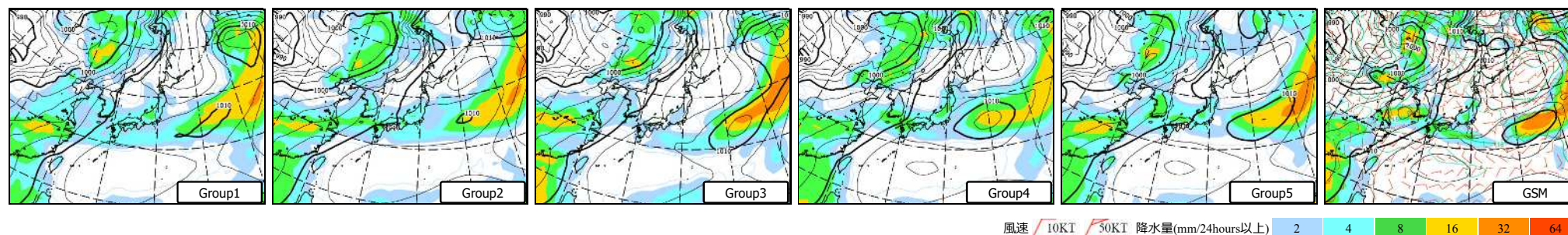


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、7月2日から4日にかけては雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月4日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、上空では、期間の前半では、千島近海付近の寒冷渦を回るトラフが深まり、東進が早くなった。華中付近のトラフが弱まり、東進が早まった。地上では、千島近海の高気圧がやや南下し、太平洋高気圧の張り出しがやや強まった。
- モデル間の差は比較的小さいが、期間の後半では前線上のじょう乱の発達や位置などに差が見られる。
- スプレッドは期間の前半は小さいが、次第に大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。